

2008年1月30日

地域公共交通の課題と今後の活性化方策について

交通ジャーナリスト 鈴木文彦

1. 地域公共交通の現実とこれまでの取り組み

- <ポイント>
- ・ 規制緩和～乗合バス・地方鉄道廃止の動き
 - ・ 市町村による廃止代替・自主運行の限界
 - ・ 地方都市独特の課題～都市構造の変化・局地的交通ネック
 - ・ 市町村合併にともなう整理・再編の必要性
 - ・ 少子高齢化と限界集落の顕在化
 - ・ マイカー依存でモビリティは確保できるのか
 - ・ 高齢ドライバーの問題・送迎の負担・ボランティアの限界
 - ・ 公共交通は社会的なインフラ（公共財的位置づけ）
 - ・ 個別に対策はされてきた～これからは政策に進化

2. 交通機能の分担とメリハリをつけた交通体系の設定

- <ポイント>
- ・ 交通はネットワーク
 - ・ 個別の改善事例の寄せ集めではダメ
 - ・ 全体計画＋短期・中長期計画
 - ・ 既存交通機関の評価～新しくつくるだけが改善ではない
 - ・ 鉄道の位置づけと活用方策
 - ・ 機能分担による体系づくり
 - ・ 幹線機能と支線機能を組み合わせる

3. コミュニティバス（市町の自主運行バス）の普及とその課題

- <ポイント>
- ・ 市町村が主体的に取り組むよりきめ細かな生活交通
 - ・ 高齢者の外出支援・モビリティ向上に効果
 - ・ しかし、少ない利用・嵩む財政負担
 - ・ コミュニティバスに既存バスが駆逐される
 - ・ なぜ？ コンセプトの曖昧さとニーズ調査の不足
 - ・ 自治体が陥りやすい落とし穴
 - ・ 身の丈に合った自前の計画
 - ・ 利用してもらえる公共交通へ
 - ・ コミュニティバスは万能ではない

4. バスの可能性と限界の見極め

- ＜ポイント＞
- ・ バスにできることはまだたくさんある
 - ・ ただしバスには限界もある
 - ・ バスではとても担えない小規模需要～タクシーの活用
 - ・ 福祉移送サービス（STS）との役割分担
 - ・ 福祉有償・ボランティア輸送・自家用車相乗りの可能性
 - ・ 適材適所のモード配置

5. 乗合タクシーとデマンド交通システム

- ＜ポイント＞
- ・ バスの限界を超えた交通ニーズのカバー
 - ・ 「バス」「タクシー」の既存概念から一步離れた可能性
 - ・ 乗合タクシーの普及
 - ・ デマンドシステムには適不適がある
 - ・ ドアツードアにどこまで近づけるべきか
 - ・ 他地域の事例に引きずられない
 - ・ なるべく低コストのシステムを考える

6. 異分野の統合と観光・まちづくり等との連携

- ＜ポイント＞
- ・ 複数機能の交通並存の無駄
 - ・ 横の連携の重要性と一元化の検討
 - ・ 外来客・観光客が使える交通機関
 - ・ まちづくりと“人が動くこと”は一体
 - ・ ただしバスが走りさえすれば解決する問題ではない
 - ・ 「駅」の活用

7. みんなでつくり育てる公共交通

- ＜ポイント＞
- ・ みんなが「当事者」になる
 - ・ 大切なことは持続させること
 - ・ どこかに過大な負担がかからない方式
 - ・ 行政が一方向的に与える仕組みからの脱却
 - ・ 本当に必要なものなら地域のみんなでつくり支えることが必要
 - ・ みんなができることを考え実行する
 - ・ 住民ができることと責任～地域バス交通を自分の問題として
 - ・ 「利用促進」を忘れるなかれ

8. 行政の役割

- <ポイント>
- ・ 効果的な財政負担～赤字補填から社会的投資への転換
 - ・ 満遍なく拡大することが公平ではない
 - ・ 住民が動くきっかけづくり
 - ・ 「当事者」間のコーディネーター
 - ・ 「人」づくり・「人」の発掘
 - ・ 交通事業者を元気にする～事業者との信頼関係づくり
 - ・ 事業者の提案・プロポーザルを促す
 - ・ 適切なインフォメーション

9. 定性的な調査の重要性と住民の合意形成

- <ポイント>
- ・ 利用するのも運営するのも「人」
 - ・ 「使う人の気持ち」の分析
 - ・ 本音のニーズの発掘～「欲しい」と「使う」の違い／低廉性より
利便性・値頃感
 - ・ アンケートはさらなる掘下げが必要～住民への直接アプローチ
 - ・ 地域検討会・勉強会の効果～住民自身の意識変革
 - ・ 高齢者の視線／子供の視線／主婦の視線
 - ・ 現場の対応のしやすさという視点／技術的な視点